

一 次の——線①～⑤の漢字には読みを、——線⑥～⑩のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 快く引き受ける。
- ② 額に汗が光る。
- ③ よく効く薬。
- ④ 新入社員を採る。
- ⑤ 巨万の富をきずく。
- ⑥ 読書にヨネンがない。
- ⑦ 種子がハツガする。
- ⑧ 申し出をコトワる。
- ⑨ アンイな考え。
- ⑩ 一門の者をヒキいる。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

現代社会を生きる人間に、時計のない生活を考えることはできない。ましてわたしのように都会に住んで工場に勤める者は、朝から晩まで時間に支配されて暮らしているといったほうがよい。ふと思いついて、わが家の時計を数えてみた。夫婦と末息子すえむすこの三人暮らしの家庭だが、台所の隣となりの居間に座って目の届くところに、柱時計がある。ビデオデッキに時計がついていて、ファックス機能のある電話にもある。電気炊飯器でんき炊飯器にもある。ほかに各自の部屋には置き時計があつて、三人それぞれが複数の腕時計うでとけいを持っている。時計だらけの生活、時計漬とけいづけの暮らしだと、あらためて思い知

らされる。通勤も工場での仕事もまた完全にAアされている。工場※1で旋盤せんぱんで鋼はがねを削けずる仕事をしているが、これもまた時間との勝負である。★

B たまに飛び入りの、あまり加工時間を気にしないでもよい仕事※1がくることがある。ちよつとむずかしい仕事で、かかった時間ぶんだけの加工賃を請求せいきゅうできることがわかっている。そういう仕事をするときのわたしは、すごく贅沢ぜいたくな気分になる。ゆつたりとタバコをふかしながら図面を眺め、段取りを考えて、バイトはちもの（刃物）を揃そろえる。それからおもむろに旋盤をまわす。まるで趣味しゅみで仕事をする気分気分にひたる。そんな一日は、時間の経つのが速い。ふだんは、まだ十時かまだ四時かと工場の壁かべの大きな時計を眺めるのに、え、もう五時かよと感ずるほど速い。同じ八時間なのに一日の長さがまるでちがう。①こんな仕事だけをして暮らしたらどんなにしあわせかと思う。

和時計あるいは大名時計と呼ばれる時計の存在は知っていたが、実物を見るのはこんどがはじめてだった。台東区谷中にある大名時計博物館の入口等さんにご案内頂いた。

（中略）

日時計、水時計、砂時計、火時計の歴史は古いが、機械式時計がヨーロッパから日本に伝えられたのは戦国時代だった。キリスト教の伝道といっしょに、宣教師は印刷機や楽器や天文、航海機械を作る技術を日本に伝えた。そのなかで機械式時計も作られるのだが、日本の技術者たちはそこで、ヨーロッパの技術者からすれば思いも及ばない工夫くわふをしてしまう。それが不定時法の和時計である。それを②原始的げんじきと表現するのは現代人の時間感覚からすれば当然だろうが、明治のはじめまで日本の時刻は、夜明けから日暮れまでを昼としその反対を夜として刻まれていた。自然を相手に太

陽と大地の恵みを受けて暮らす人びとにとっては便利な生活時刻法だった。

上口等さんが東京時間で割り出した「いつとき」の長さは、夏至の昼間は二時間三十八分で夜は一時間二十一分、冬至だと昼間が一時間四十九分で夜は二時間十分となるという。和時計は、こんな複雑な時刻に合わせる工夫をしなければならなかった。ヨーロッパのように一日を二十四時間に定時分割する時計のほうが、はるかに機構が単純なのは素人にもわかる。ヨーロッパの合理主義からみれば、時計にそんな工夫を求める前に不定時法を定時法に改めるべきだと考えるところだろう。

「技術というのは、その時代の生活に必要なものとして生まれる文化です。いまわたしたちが持っている技術をモノサシにして高低をうんぬんしたら、何も学ぶことはできない」

「時計文化の発達を見てもわかることですが、ヨーロッパ的な文化というのはひとつの問いに答えもひとつです。ところがどうでしょう。大名時計を調べてみるとわかりますが、日本の文化では答えが複雑に広がります。正確に時を刻むというだけではないのです。時計の針が右にも左にもまわる。針を固定して、文字盤も右まわり左まわりがある。江戸時代の技術者の発想の豊かさが見てとれる」

なるほど、ヨーロッパでは文字盤を等分するところを、昼夜の長さを不等分にした文字盤を作ったり、細長い箱形の尺時計を作った。季節ごとに目盛りを替える節板式から、更に進んで一枚の板に一年間の季節ごとの時刻目盛りをグラフにして刻んだ波板式文字盤を考案する。こういう時計は世界に類がないという。

明治七年に不定時法が廃止となるまでの二世紀にわたって、和時計は日本独自の歩みをするが、単に技術的な変遷だけではなく、美術工芸品として

問一 空らん A に入る語句として最も適当なものを、★印より前の本文から五字でぬき出しなさい。

問二 空らん B に入る語句として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ところが イ さらに ウ または エ つまり

問三 線①「こんな仕事」とありますが、どのような仕事のことですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 工場で旋盤で鋼を削る仕事
イ 都会に住んで工場でする仕事
ウ 加工の時間を気にしない仕事
エ 時間ぶんの加工賃を請求できる仕事

問四 線②「原始的」とありますが、これはどのような生活のことですか。「生活」に続く形で本文からぬき出し、二十一字で答えなさい。

問五 線③「そんな工夫」とありますが、どのような工夫のことですか。本文からぬき出し、十二字で答えなさい。

問六 線④「文字盤を等分する」ことを、ほかではどのように表現していますか。本文からぬき出し、十五字で答えなさい。

の価値もまた見逃すことはできない、と上口さんはおっしゃる。博物館に飾ってある時計を眺めれば、それはすぐにうなづくことができる。むろん時計師を抱える大名たちの経済力に支えられてのことではあるが、機能だけを求める技術者ではなく、当時の時計師がいかに美しさを求める心を持っていたか。

「鐘の音にも美を求める。時を伝える音のなかにも美しさを求める。時計の機能、時刻を知り時間をはかることを主役にしない。機能は脇役に徹する。そういう意識があったと思いますよ」

「現代人というのはどうですか。働いているというけれど、動かされているのでしょうか」

主役は人間だ。道具は脇役にすぎない。頭ではそう知りながら、道具が便利になるほど人はいつの間にか道具にふりまわされてきた。コンピュータ機能を持った旋盤を使って鋼を削る日ごとの暮らしのなかで、わたしもまた上口等さんの言葉に、思いあたることは多い。

技術史的に見れば、ヨーロッパの時計が本流で、和時計は小さな支流にすぎない。明治以降の近代化のなかでは和時計の技術はほとんど生かされることもなかったから、支流というよりは、技術の道草だったとも言える。

しかし、子どもが道草で多くを学ぶように、また道草をしなかった男の人生が味気ないように、和時計はさまざまなことを現代に語りかけてくれるように思う。和時計の歯車の割り出しに使われたと推定される和算のこじやロクロをはじめとしたさまざまな道具の記録がないだけに、和時計はこちらが聞く耳を持たず、教えてくれることは多いようだ。

(小関智弘「町工場巡礼の旅」)

※1 旋盤：工作機械の一つ。金属等を加工したりするのに使う

※2 変遷：時がたつにつれて、移り変わること

問七 線⑤「日本独自の歩み」とありますが、これをわかりやすく説明した次の文の空らん ① ② に、最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

日本の時計師は和時計を作る時に ① だけではなく ② も備えたものを作るように心掛けていた。

- ア 歴史 イ 機能 ウ 道具
エ 美しさ オ 主役 カ 脇役

問八 線⑥「時計の機能、時刻を知り時間をはかることを主役にしない。機能は脇役に徹する。」とありますが、ここで主役にあたるものは何か答えなさい。

問九 線⑦「思い当たることは多い」とありますが、どのようなことに思い当たるのですか。二十五字前後で書きなさい。

問十 線⑧「和時計はさまざまなことを現代に語りかけてくれるように思う。」とありますが、どのようなことを語りかけてくれるといっているのですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 時計とは正確な時間を知らせるだけでなく、美術品としての価値が大切なこと。

イ 何でも機能を重視するだけでなく、時にはムダと考えることも必要なこと。

ウ ヨーロッパ的な文化よりも日本独自の歩みを大切にすることが大事なこと。

エ 江戸時代の記録として残っていない和算やロクロなどの道具についての情報のこと。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学六年の浦和大地は東小学校卓球部のキャプテンである。小学校最後の県大会の試合で、友だちの誠とダブルスを組み、優勝したいと思っていた。けれども、辻先生の指示で大地は五年の純と組むことになり、誠は六年のハセツチと組むことになった。

「純、そうじゃないだろ！ 大地が打っているときも、球をよく見るんだ。」
辻先生のきびしい声が、体育館にひびく。
「すみません。」

純はすなおに謝って、次こそちゃんとやろうと構えるのだが、なかなか体がついてこないようで、ラリーが続かない。

九月中旬、まだ体育館はむし暑くて、さつき着がえたばかりなのに、もうTシャツが汗ばんでいる。

大地たちは、ダブルスの練習をスタートしていた。先生が一人で、二人の相手をする。

先生がサーブを打つ。大地がレシーブしてから、すばやくコートをはなれて後ろに回る。先生が打ち返したところには純がまえていて、しっかりと打ち返し、すばやくはなれて後ろに回り、今度は大地が――。

こんなふうになるのが理想だ。ダブルスは「球交代で打たなくてはならないから、相手に場所をゆずったり、今度は自分が前に出たり、というふうにフットワークが大切なのだ。」

しかし、実際は全然そうならなかった。ダブルスが初めての純は、まるで余裕がないのだ。先生に「もっと動け」といわれたら、自分の動きで一杯だし、「もっと大地の球をよく見ろ」といわれたら、球を見ることにうだ。

本当ははげますべきなんだろうな。そう思いつつ、大地はかたい口調で返事をした。
「純は、もっと基礎的なことをやったほうがいいよ。休みの日に、素ぶりを百回やったりとか、フットワークをよくするために反復横とびの練習をするとか。」

おまえにはダブルスの練習はまだまだ早い、と冷たくいつているようなものなのに、純はすなおにうなずく。
「はい、ありがとうございます。」

そのいっしょうけんめいさに、大地はまたいらだちそうになる。これ以上、意地悪なことをいってしまわないように、コートをはなれた。そのとき彼はにぎやかな声に気づいた。
「うおお――。」

「い、いぞ、おまえら。」

先生は、今度は誠とハセツチのダブルスの相手をしていたので。
⑥ 大地は立ちつくしてしまった。だって、自分と純のダブルスとは正反対だ。誠もハセツチも、生き生きしている。ふたりともシングルスではそんなに強くない。なのに、ふたりで組むと、「1+1=2」どころか、3にも4にもなっているようだ。

「おれたち、もしかしてすげー強いかも。」
そうさげびながらハセツチのかたをたいた誠と、大地は目が合ってしまった。誠があわてて目をそらすのを感じる。

「そうだよ、誠。こないだまでは「大地と組みたかった」といつてくれたいたのに……。」
⑦ 世界でひとりぼっちになってしまったような気分になりながらも、大地

夢中で、動くのを忘れる。

「大地、おまえも気づいたことがあったら、純にどんなアドバイスしてやれよ。」

先生はそういうが、大地は気づいたことが多すぎて、何からいつていいかわからない、という状態だった。純は、誠と同じ「ドライブ型」という卓球のスタイルなのだが、とても同じとは思えない。「ドライブ型」は、ボールの上をこするようになって強い上回転をかけるのが武器だけれど、その技術自体が純はまだまだなのだ。

ひとしきり練習すると、先生はふたりを呼んだ。
「いいか。大地も純もよく聞け。おまえたちは、うまくいけばなかなかいいコンビになるんだぞ。」

とてもそうは思えないが。大地が下を向いていると、先生は続けた。

「純は、ボールをていねいにつなぐんだ。回転をかけることに気をとられずに、ラケットの角度でコースだけねらえ。そうすればあとは大地がやる。大地、おまえは純の球で相手がバランスをくずしたところへ、スマッシュをたたきこめ。」

「はい。」

返事をしたものの、それができれば苦労はないよ、と大地はいいたかった。純は自分がどう動くかで頭がいっぱいで、「ラケットの角度でコースだけねらう」なんて無理だし、「相手はバランスをくずした」りしないし、だからほくも必死に返球するのがせいぜいで、スマッシュを打つのは相手のほうだろう。そう思うと、なんだかむなしくなってしまった。

「すみませんでした。」

先生がほかの子の練習を見に行つて、ふたり取り残されると、純が謝ってきた。大地が心のなかでぶりぶりしていることに、純は気づいていたよ

は強さの秘密を探ろうと、ふた리를目で追っていた。

先生のサーブを誠が受ける。ラケットをボールにかぶせるようにして、強い上回転をかける。それを受けた先生も、負けじと同じように上回転をかける。

「なるほど……。」

大地はつぶやいた。もしぼくと誠がダブルスを組んでいたら、そろそろ勝負が決まるところだ。今の先生の球がゆるかったら、ぼくは力強くスマッシュを決める。でも先生の球のほうが強ければ、ぼくはミスする。

でも誠とハセツチのダブルスはちがうのだ。誠が返球した次の球を、ハセツチはコートから二メートルくらい下がって、めいっばいボールを体にひきつけるようにして、ラケットに当てる。上回転を殺すように、強く強く下回転をかける。

要するに誠とハセツチの相手をするチームは、上回転が来たと思ったら次は下回転、ということになり、おおいにほんろうされることになる。

中学生以上だったら、こういうダブルスはめずらしくない。でも小学生にカットマンは少なかったから、これは市大会でベスト8どころか、もしかして小学生の部で優勝をかざったりして……？

男子部のキャプテンとしては、本当は喜ぶべきところなのかもしれない。仲間から強いダブルスが生まれた瞬間を、見たのだから。

⑧ でも、むしろ逆だった。誠もハセツチも、自分とは全然関係ないところで楽しそうで、さびしいよ。こんなことで気持ちって変わってしまうんだなあ。

大地はクラブが急につまらなくなった気がした。うつむくと、シューズの先がすりきれているのに気づいた。ぬいで底を見ると、ぽこっと小さな穴があいている。近いうちに新しいのを買ってもらわなきゃ。

A、つてこういう気分のことをいうのだろうか。大地はため息をついた。

クラブ活動が終わって卓球台を片づけると、大地はさっさと着がえた。空き地のススキがさらさらと秋風にゆれている。その横を、一人、家に向かった。いつもは、誠とハセッチを待っていつしよに帰るのだが、今日はそういう気分になれない。

「おーい。」

横断歩道を渡ったところで、追いついてきたのは誠だった。

「急いでんのか。」

そうきいてくるので、大地は調子を合わせた。

「うん、ちょっと。早く帰らなきゃなんないから。ハセッチは？」

「あいつは、日直の仕事を忘れてたっていうから、置いてきた。」

「そっか。」

しばし沈黙したあとで、誠がいった。

⑨「オレ、自分でも意外だったんだ。」

「何が。」

「ほら、オレ、大地とじゃなきゃダブルスいやだって思ってたんだけどさ。」

まあ、ハセッチとも前向きにやらなきゃって決めたら、案外、悪くないかもしれないって思ってたさ。」

ああ。誠も誠なりに、気にしてくれていたのが。ぼくの前でハセッチとは

しゃいで悪かったと思って、追いかけてきてくれたんだなあ。

そう気づいた大地は、男の意地でつつ張らざるをえない。

「気にしないでいいよ。ぼくもびっくりしたもん。ハセッチと誠って、ト

ップねらえるかもな。」

「トప్పって、なんのことだよ。」

問五 —— 線⑤「大地はまたいらだちそうになる。」とありますが、大地

は純のどのような態度に対していらだちそうになるのですか。本文か

ら二つぬき出しなさい。ただし、ひとつは五字以内、もうひとつは十字以内でぬき出しなさい。

問六 —— 線⑥「大地は立ちつくしてしまった。」とありますが、それは

なぜですか。次の(1)・(2)に本文の言葉を使って答え

なさい。

誠とハセッチの様子が(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100) (101) (102) (103) (104) (105) (106) (107) (108) (109) (110) (111) (112) (113) (114) (115) (116) (117) (118) (119) (120) (121) (122) (123) (124) (125) (126) (127) (128) (129) (130) (131) (132) (133) (134) (135) (136) (137) (138) (139) (140) (141) (142) (143) (144) (145) (146) (147) (148) (149) (150) (151) (152) (153) (154) (155) (156) (157) (158) (159) (160) (161) (162) (163) (164) (165) (166) (167) (168) (169) (170) (171) (172) (173) (174) (175) (176) (177) (178) (179) (180) (181) (182) (183) (184) (185) (186) (187) (188) (189) (190) (191) (192) (193) (194) (195) (196) (197) (198) (199) (200) (201) (202) (203) (204) (205) (206) (207) (208) (209) (210) (211) (212) (213) (214) (215) (216) (217) (218) (219) (220) (221) (222) (223) (224) (225) (226) (227) (228) (229) (230) (231) (232) (233) (234) (235) (236) (237) (238) (239) (240) (241) (242) (243) (244) (245) (246) (247) (248) (249) (250) (251) (252) (253) (254) (255) (256) (257) (258) (259) (260) (261) (262) (263) (264) (265) (266) (267) (268) (269) (270) (271) (272) (273) (274) (275) (276) (277) (278) (279) (280) (281) (282) (283) (284) (285) (286) (287) (288) (289) (290) (291) (292) (293) (294) (295) (296) (297) (298) (299) (300) (301) (302) (303) (304) (305) (306) (307) (308) (309) (310) (311) (312) (313) (314) (315) (316) (317) (318) (319) (320) (321) (322) (323) (324) (325) (326) (327) (328) (329) (330) (331) (332) (333) (334) (335) (336) (337) (338) (339) (340) (341) (342) (343) (344) (345) (346) (347) (348) (349) (350) (351) (352) (353) (354) (355) (356) (357) (358) (359) (360) (361) (362) (363) (364) (365) (366) (367) (368) (369) (370) (371) (372) (373) (374) (375) (376) (377) (378) (379) (380) (381) (382) (383) (384) (385) (386) (387) (388) (389) (390) (391) (392) (393) (394) (395) (396) (397) (398) (399) (400) (401) (402) (403) (404) (405) (406) (407) (408) (409) (410) (411) (412) (413) (414) (415) (416) (417) (418) (419) (420) (421) (422) (423) (424) (425) (426) (427) (428) (429) (430) (431) (432) (433) (434) (435) (436) (437) (438) (439) (440) (441) (442) (443) (444) (445) (446) (447) (448) (449) (450) (451) (452) (453) (454) (455) (456) (457) (458) (459) (460) (461) (462) (463) (464) (465) (466) (467) (468) (469) (470) (471) (472) (473) (474) (475) (476) (477) (478) (479) (480) (481) (482) (483) (484) (485) (486) (487) (488) (489) (490) (491) (492) (493) (494) (495) (496) (497) (498) (499) (500) (501) (502) (503) (504) (505) (506) (507) (508) (509) (510) (511) (512) (513) (514) (515) (516) (517) (518) (519) (520) (521) (522) (523) (524) (525) (526) (527) (528) (529) (530) (531) (532) (533) (534) (535) (536) (537) (538) (539) (540) (541) (542) (543) (544) (545) (546) (547) (548) (549) (550) (551) (552) (553) (554) (555) (556) (557) (558) (559) (560) (561) (562) (563) (564) (565) (566) (567) (568) (569) (570) (571) (572) (573) (574) (575) (576) (577) (578) (579) (580) (581) (582) (583) (584) (585) (586) (587) (588) (589) (590) (591) (592) (593) (594) (595) (596) (597) (598) (599) (600) (601) (602) (603) (604) (605) (606) (607) (608) (609) (610) (611) (612) (613) (614) (615) (616) (617) (618) (619) (620) (621) (622) (623) (624) (625) (626) (627) (628) (629) (630) (631) (632) (633) (634) (635) (636) (637) (638) (639) (640) (641) (642) (643) (644) (645) (646) (647) (648) (649) (650) (651) (652) (653) (654) (655) (656) (657) (658) (659) (660) (661) (662) (663) (664) (665) (666) (667) (668) (669) (670) (671) (672) (673) (674) (675) (676) (677) (678) (679) (680) (681) (682) (683) (684) (685) (686) (687) (688) (689) (690) (691) (692) (693) (694) (695) (696) (697) (698) (699) (700) (701) (702) (703) (704) (705) (706) (707) (708) (709) (710) (711) (712) (713) (714) (715) (716) (717) (718) (719) (720) (721) (722) (723) (724) (725) (726) (727) (728) (729) (730) (731) (732) (733) (734) (735) (736) (737) (738) (739) (740) (741) (742) (743) (744) (745) (746) (747) (748) (749) (750) (751) (752) (753) (754) (755) (756) (757) (758) (759) (760) (761) (762) (763) (764) (765) (766) (767) (768) (769) (770) (771) (772) (773) (774) (775) (776) (777) (778) (779) (780) (781) (782) (783) (784) (785) (786) (787) (788) (789) (790) (791) (792) (793) (794) (795) (796) (797) (798) (799) (800) (801) (802) (803) (804) (805) (806) (807) (808) (809) (810) (811) (812) (813) (814) (815) (816) (817) (818) (819) (820) (821) (822) (823) (824) (825) (826) (827) (828) (829) (830) (831) (832) (833) (834) (835) (836) (837) (838) (839) (840) (841) (842) (843) (844) (845) (846) (847) (848) (849) (850) (851) (852) (853) (854) (855) (856) (857) (858) (859) (860) (861) (862) (863) (864) (865) (866) (867) (868) (869) (870) (871) (872) (873) (874) (875) (876) (877) (878) (879) (880) (881) (882) (883) (884) (885) (886) (887) (888) (889) (890) (891) (892) (893) (894) (895) (896) (897) (898) (899) (900) (901) (902) (903) (904) (905) (906) (907) (908) (909) (910) (911) (912) (913) (914) (915) (916) (917) (918) (919) (920) (921) (922) (923) (924) (925) (926) (927) (928) (929) (930) (931) (932) (933) (934) (935) (936) (937) (938) (939) (940) (941) (942) (943) (944) (945) (946) (947) (948) (949) (950) (951) (952) (953) (954) (955) (956) (957) (958) (959) (960) (961) (962) (963) (964) (965) (966) (967) (968) (969) (970) (971) (972) (973) (974) (975) (976) (977) (978) (979) (980) (981) (982) (983) (984) (985) (986) (987) (988) (989) (990) (991) (992) (993) (994) (995) (996) (997) (998) (999) (1000)

ときより(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100) (101) (102) (103) (104) (105) (106) (107) (108) (109) (110) (111) (112) (113) (114) (115) (116) (117) (118) (119) (120) (121) (122) (123) (124) (125) (126) (127) (128) (129) (130) (131) (132) (133) (134) (135) (136) (137) (138) (139) (140) (141) (142) (143) (144) (145) (146) (147) (148) (149) (150) (151) (152) (153) (154) (155) (156) (157) (158) (159) (160) (161) (162) (163) (164) (165) (166) (167) (168) (169) (170) (171) (172) (173) (174) (175) (176) (177) (178) (179) (180) (181) (182) (183) (184) (185) (186) (187) (188) (189) (190) (191) (192) (193) (194) (195) (196) (197) (198) (199) (200) (201) (202) (203) (204) (205) (206) (207) (208) (209) (210) (211) (212) (213) (214) (215) (216) (217) (218) (219) (220) (221) (222) (223) (224) (225) (226) (227) (228) (229) (230) (231) (232) (233) (234) (235) (236) (237) (238) (239) (240) (241) (242) (243) (244) (245) (246) (247) (248) (249) (250) (251) (252) (253) (254) (255) (256) (257) (258) (259) (260) (261) (262) (263) (264) (265) (266) (267) (268) (269) (270) (271) (272) (273) (274) (275) (276) (277) (278) (279) (280) (281) (282) (283) (284) (285) (286) (287) (288) (289) (290) (291) (292) (293) (294) (295) (296) (297) (298) (299) (300) (301) (302) (303) (304) (305) (306) (307) (308) (309) (310) (311) (312) (313) (314) (315) (316) (317) (318) (319) (320) (321) (322) (323) (324) (325) (326) (327) (328) (329) (330) (331) (332) (333) (334) (335) (336) (337) (338) (339) (340) (341) (342) (343) (344) (345) (346) (347) (348) (349) (350) (351) (352) (353) (354) (355) (356) (357) (358) (359) (360) (361) (362) (363) (364) (365) (366) (367) (368) (369) (370) (371) (372) (373) (374) (375) (376) (377) (378) (379) (380) (381) (382) (383) (384) (385) (386) (387) (388) (389) (390) (391) (392) (393) (394) (395) (396) (397) (398) (399) (400) (401) (402) (403) (404) (405) (406) (407) (408) (409) (410) (411) (412) (413) (414) (415) (416) (417) (418) (419) (420) (421) (422) (423) (424) (425) (426) (427) (428) (429) (430) (431) (432) (433) (434) (435) (436) (437) (438) (439) (440) (441) (442) (443) (444) (445) (446) (447) (448) (449) (450) (451) (452) (453) (454) (455) (456) (457) (458) (459) (460) (461) (462) (463) (464) (465) (466) (467) (468) (469) (470) (471) (472) (473) (474) (475) (476) (477) (478) (479) (480) (481) (482) (483) (484) (485) (486) (487) (488) (489) (490) (491) (492) (493) (494) (495) (496) (497) (498) (499) (500) (501) (502) (503) (504) (505) (506) (507) (508) (509) (510) (511) (512) (513) (514) (515) (516) (517) (518) (519) (520) (521) (522) (523) (524) (525) (526) (527) (528) (529) (530) (531) (532) (533) (534) (535) (536) (537) (538) (539) (540) (541) (542) (543) (544) (545) (546) (547) (548) (549) (550) (551) (552) (553) (554) (555) (556) (557) (558) (559) (560) (561) (562) (563) (564) (565) (566) (567) (568) (569) (570) (571) (572) (573) (574) (575) (576) (577) (578) (579) (580) (581) (582) (583) (584) (585) (586) (587) (588) (589) (590) (591) (592) (593) (594) (595) (596) (597) (598) (599) (600) (601) (602) (603) (604) (605) (606) (607) (608) (609) (610) (611) (612) (613) (614) (615) (616) (617) (618) (619) (620) (621) (622) (623) (624) (625) (626) (627) (628) (629) (630) (631) (632) (633) (634) (635) (636) (637) (638) (639) (640) (641) (642) (643) (644) (645) (646) (647) (648) (649) (650) (651) (652) (653) (654) (655) (656) (657) (658) (659) (660) (661) (662) (663) (664) (665) (666) (667) (668) (669) (670) (671) (672) (673) (674) (675) (676) (677) (678) (679) (680) (681) (682) (683) (684) (685) (686) (687) (688) (689) (690) (691) (692) (693) (694) (695) (696) (697) (698) (699) (700) (701) (702) (703) (704) (705) (706) (707) (708) (709) (710) (711) (712) (713) (714) (715) (716) (717) (718) (719) (720) (721) (722) (723) (724) (725) (726) (727) (728) (729) (730) (731) (732) (733) (734) (735) (736) (737) (738) (739) (740) (741) (742) (743) (744) (745) (746) (747) (748) (749) (750) (751) (752) (753) (754) (755) (756) (757) (758) (759) (760) (761) (762) (763) (764) (765) (766) (767) (768) (769) (770) (771) (772) (773) (774) (775) (776) (777) (778) (779) (780) (781) (782) (783) (784) (785) (786) (787) (788) (789) (790) (791) (792) (793) (794) (795) (796) (797) (798) (799) (800) (801) (802) (803) (804) (805) (806) (807) (808) (809) (810) (811) (812) (813) (814) (815) (816) (817) (818) (819) (820) (821) (822) (823) (824) (825) (826) (827) (828) (829) (830) (831) (832) (833) (834) (835) (836) (837) (838) (839) (840) (841) (842) (843) (844) (845) (846) (847) (848) (849) (850) (851) (852) (853) (854) (855) (856) (857) (858) (859) (860) (861) (862) (863) (864) (865) (866) (867) (868) (869) (870) (871) (872) (873) (874) (875) (876) (877) (878) (879) (880) (881) (882) (883) (884) (885) (886) (887) (888) (889) (890) (891) (892) (893) (894) (895) (896) (897) (898) (899) (900) (901) (902) (903) (904) (905) (906) (907) (908) (909) (910) (911) (912) (913) (914) (915) (916) (917) (918) (919) (920) (921) (922) (923) (924) (925) (926) (927) (928) (929) (930) (931) (932) (933) (934) (935) (936) (937) (938) (939) (940) (941) (942) (943) (944) (945) (946) (947) (948) (949) (950) (951) (952) (953) (954) (955) (956) (957) (958) (959) (960) (961) (962) (963) (964) (965) (966) (967) (968) (969) (970) (971) (972) (973) (974) (975) (976) (977) (978) (979) (980) (981) (982) (983) (984) (985) (986) (987) (988) (989) (990) (991) (992) (993) (994) (995) (996) (997) (998) (999) (1000)

問七 —— 線⑦「大地は強さの秘密を探ろうと、ふたりの目を追っていた。」

とありますが、その結果、わかったことをまとめて表現している一文

をぬき出し、初めと終わりの五字で答えなさい。(句読点も数える)

問八 —— 線⑧「でも、むしろ逆だった。」とはどういう意味ですか。最

も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 誠とハセッチのダブルスが強くなったことを喜ぶどころか、自分だ

け取り残されたようで、やる気をなくしている。

イ 自分と組みたいと言っていた誠がハセッチと組んで強くなったのは

くやしいが、キャプテンとしてはうれしく思う。

ウ 誠とハセッチが自分の知らないところで練習して強くなったことに

あせりを感じるどころか、怒りさえも感じている。

エ 誠とハセッチのダブルスが市大会で優勝したら自分もうれしいが、

先生まで熱の入った練習をするので不満に思っている。

「県大会優勝とかさ。」

「ば、ばかいえよ——っ。」

誠が大笑いした。やっとふたりの間の空気が、いつも通りにもどった。

(吉野 万理子『チームふたり』)

問一 —— 線①「今度は大地が——。」とありますが、この「——」に省

略されている言葉を本文の言葉を使って三十字以内で書きなさい。

問二 —— 線②「自分の動きで精一杯だし、」とありますが、そのことを

ほかの表現でどのように言っていますか。本文から五字でぬき出しな

さい。

問三 —— 線③「なかなかいいコンビになるんだぞ」とありますが、どの

ようにすればいいコンビになると思うのですか。純と大地の二人の戦

い方を本文の言葉を使ってそれぞれ説明しなさい。

問四 —— 線④「なんだかむなしくなっちゃった。」とありますが、こ

四 次の各問いに答えなさい。

問一 次の一線の部分が直接かかっている部分を二線から選び、記号で答えなさい。

- ① 今日 僕は 友だちと 図書館へ 行った。
ア 今日 僕は 友だちと 図書館へ 行った。
イ 今日 僕は 友だちと 図書館へ 行った。
ウ 今日 僕は 友だちと 図書館へ 行った。
エ 今日 僕は 友だちと 図書館へ 行った。

- ② きれいな 花が たくさん 咲いて いる。
ア きれいな 花が たくさん 咲いて いる。
イ きれいな 花が たくさん 咲いて いる。
ウ きれいな 花が たくさん 咲いて いる。
エ きれいな 花が たくさん 咲いて いる。

問二 宮沢賢治の作品をすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 『注文の多い料理店』 イ 『人間失格』
ウ 『坊ちゃん』 エ 『銀河鉄道の夜』
オ 『野菊の墓』